

巻頭言

大矢根 淳

社会科学研究所 2022 年度夏季実態調査は、事務局通称「北関東近代化遺産シリーズ」の第二弾となります。2019 年度末より猛威を振るうコロナ禍により、2021 年度夏季実態調査（2021 年 8-9 月実施予定）は中止となり、その後、コロナ禍対応の学内規定に則りつつ何とか企画を調整して（訪問受け入れ先の打診、移動・宿泊手段の調整…）、2021 年度春季（2022 年 3 月）にその第一弾が実施されました。企画の構成、調整の趣旨、その学術的な含意や、それに基づく訪問先選定の戦略等については、今、改めて、長尾 2022 を参照いただきたいと思います。その工夫・苦勞の履歴を反芻しつつ、ここまで緻密に実態調査を組み上げていただいた長尾謙吉・石川和男（前・現研究会担当チーフ）、小池隆生事務局長に感謝します。そして何より、現地で私たち社研一行の訪問をこころよく、万全の態勢でお迎えいただき、見学や質疑に細やかにご対応いただいた訪問先施設の皆様方には心より感謝します。

社研実態調査「北関東近代化遺産シリーズ」は、その第一弾では、群馬・栃木・茨城を結ぶ北関東の東西軸・国道 50 号に沿って、製糸・織物の地を巡りました。これに続いて今回、第二弾（2022 年 9 月実施）では、南北軸（国道 122 号）を加えて、足尾銅山、日光まで足を延ばしました。社研『月報』今合併号をこうしてまとめている現時点、2023 年 2 月は、2022 年度春季=第三弾実施の直前で、シリーズ第三弾・完結編では、東西軸をさらに北西へ、八ツ場ダム（草津温泉）に向かう予定です。

社研実態調査は、毎年、夏・春の二度、実施されることとなっていて（夏・春合宿集中研究会）、おおよそ隔年で海外も対象となっています。しかしながらこのコロナ禍で渡航が難しく、この数年、海外は実現していません。コロナ禍直前までは、ベトナムをコアにインドシナからスリランカまで各国を巡って来ました。おりしも、2023 年は、日越外交関係樹立 50 周年を迎えることから、社研の国際交流組織間協定締結先であるベトナム社会科学院・東北アジア研究所から打診があって、国際シンポジウム開催などの共同企画が持ち上がりつつあります。2023 年夏には再び海外実態調査が復活することとなりそうです。そうしてみると、この北関東近代化遺産シリーズは、夏・春続けて複数年にわたり一つの視角でじっくりと、前回の訪問事情を詳しく振り返りつつ、各時期の訪問先事情を勘案しながら、丁寧に学びの深度を深めて実績を重ねてくることができた、貴重な特別研究会企画であったと思います。

このように位置づけられる実態調査には、毎回、現役の社研所員のみならず、定年退職された元所員の先生方（参与、名誉教授）や、事前学習会で講師を引き受けてくれた所外、学外の

先生方なども参加してくださっています。『月報』実態調査特集号への、そうした先生方のご寄稿に深く感謝します。

◇長尾謙吉, 2022, 「群馬県の近現代にみる空間統合と空間集積—『近代化遺産を通して学ぶ社会変化』の問題意識—」『専修大学社会科学研究所 月報』, No.710・711 (8月・9月合併)。